

高崎商科大学・平成30年度運営方針

I 前文

本学は、魅力ある教育・研究機関として改善・改革を継続し、永続的な発展をめざす

- ・自主・自立の建学の精神に立ち、社会的使命を果たす
- ・「実学重視」「人間尊重」「未来創造」の教育理念の下にビジネス社会のリーダーとなる人材を育成し「知の拠点」として、社会・地域と交流しその発展に貢献する

II 課題と展望

1 学生を「面倒見よく育てる大学」として、地元で最も信頼される大学をめざす

- ・特色ある教育・研究実績を上げ、地域密着型の「商大ブランド」を確立する

2 教学体制の確立

- ・TUCモデルによって、大学・大学院の入学定員の確保、就職内定率100%をめざす
- ・高大連携(附属・地元高校との連携やHaul-Aプロジェクト、SAH)を維持・発展させる

3 今後の展望

- ・大学COC事業の成果を継承発展させる、プラス事業(31年度まで)を成功に導く
- ・DPに掲げる「実務や社会で応用できる能力」を養うため、経営学科では実践力ある人材を育成(3.5本の矢プロジェクト)、中小企業診断士を輩出する。会計学科では公認会計士を輩出する
- ・大学院研究科では、社会の高度な人材要請に応える

III 大学運営

1 教育と研究

- ・アクティブラーニングを導入、3つのポリシーに留意し授業改善を行う
- ・DPの「学びを地域に還元」するため、大学COC事業を継承し地域志向の教育・研究に全員が取り組む
- ・外部資金(「科研費」や「民間資金」)の獲得に努力する

2 学生生活

- ・学生の学習・生活満足度を高める。退学させず就職内定・卒業まで導く
- ・「専門演習」において就活支援を行う

3 社会・地域貢献

- ・社会・地域貢献(公開講座、フィールドワーク、地域の活性化など)に努める

4 広報戦略・IR活動を強化

- ・ステークホルダーに向けて広報活動を充実させる
- ・学内外のデータを収集・分析し、運営に活用する(ベンチマーキングを重視)

5 組織人としての行動

- ・全学イベント(彩霞祭・体育祭・合同企業説明会など)は、全員参加とする
- ・教職員らしい品位を保ち法令や規律を遵守し、快適な職場環境を確保する
- ・FD活動とSD活動を連携させ、教職協働により大学運営に取り組む
- ・速やかな「報・連・相」で情報を共有し、業務を効率よく推進する
- ・普段から経費の節減に努める(入るを量りて出ざるを制す)

6 対外関係

- ・産官金言民学の連携、国内外の大学等との連携を維持・強化する
- ・国の補助事業等に応募申請する

※「運営方針」のもとに、各個人・各組織はPDCA(計画・実行・評価・改善)を実践する